



ヨコハマトリエンナーレ 2014 新着情報

昼も、夜も楽しめる多彩なプログラム、イベントが盛りだくさん**◆8月来日作家[マイケル・ラコウィッツ]イベント**

8月27日(水)・28日(木)／BUKATSUDO(ランドマークプラザ)

◆夜間開館 9月13日(土) 20時まで 限定プログラム実施／横浜美術館・新港ピア**◆9月から始まる映像プログラム オープニング上映：**

フランソワ・トリュフォー《華氏451》+大林宣彦氏講演会 9月6日(土)／横浜美術館

「ヨコハマトリエンナーレ 2014」(会期:2014年8月1日(金)～11月3日(月・祝)／主会場:横浜美術館・新港ピア)は開幕からそろそろ1か月を迎えます。お盆休み期間も学生からファミリー層まで幅広い方々が来場され、盛況な滑り出しとなりました。そこで、お盆明けから9月にかけて開催する多彩な期間限定プログラムやイベントをご紹介します。ぜひご来場ください。

◆マイケル・ラコウィッツ来日 トーク&上映会／パフォーマンス型ディナー

本展出品作家マイケル・ラコウィッツを迎えてお送りする2夜連続のプログラム。1夜目は本展出品作品を制作した際に撮影したドキュメンタリービデオの上映と、作品にまつわるトークセッションを、2夜目には今や失われつつある自らがイラク系ユダヤ人の祖父母のレシピ料理を振る舞うパフォーマンスディナーを開催します。



マイケル・ラコウィッツ《どんな塵が立ち上がるだろう?》2012
Courtesy of the artist and Lombard Freid Gallery, New York
Photo: KATO Ken

<トーク&上映会>

日時:8月27日(水) 18:30～20:00(18:00開場)

定員:60名(参加費無料)*事前申込制

<パフォーマンス型ディナー>

日時:8月28日(木) 19:00～21:00(18:30開場)

定員:15名(参加費:5,000円)*事前申込制

= 共通 =

会場:BUKATSUDO(ランドマークプラザ B1F)

マイケル・ラコウィッツ(1973年/アメリカ生まれ)

イラク＝ユダヤ系に出自を持ち、社会的弱者の状況や戦争による文化の破壊に目を向けるプロジェクトを数多く行う。《どんな塵が立ち上がるだろう?》では、タリバンが石仏を破壊したパーミヤンの石を用い、1941年英軍によって爆撃されたドイツ・カッセルの図書館の本の複製を作った。喪失の記憶を共有する人々とともに、美術表現を通じて再生を試みる。

◆夜間開館 9月13日(土) 20時まで開館**やなぎみわ移動舞台車トランスフォーム／トヨタヒトシ「映像日記／スライドショー」**

9月13日(土)は毎月1回の夜間開館日。横浜美術館および新港ピアの開場時間を20時まで延長します。同日夕刻、新港ピアでは、やなぎみわの出品作品「演劇公演『日輪の翼』のための移動舞台車」の舞台が展開します。また横浜美術館ではトヨタヒトシの「映像日記／スライドショー」を野外上映します。

**新港ピア会場****やなぎみわ「演劇公演『日輪の翼』のための移動舞台車」トランスフォーム**

やなぎみわが台湾で制作し、数年後には日本国内を巡回する演劇公演の舞台となる移動舞台車。そのステージが、約5分掛けてトレーラーとして閉じた状態から展開します。完全にオープンすると高さ10m以上にもなる、LEDライトとミラーボール、スパンコールで装飾された巨大なステージの、迫力のトランスフォームの瞬間をぜひご覧ください。

日時: 9月13日(土) 18:30 ステージ展開開始

その後閉館まで展開展示

会場: 新港ピア

やなぎみわ(1967年/日本生まれ)

CGや特殊メイクを駆使した写真によりジェンダー、若さと老いといった女性を取り巻く諸問題への洞察を試みる。2001年の横浜トリエンナーレ、2009年のヴェネチア・ビエンナーレ(日本館代表)に参加。2010年より演劇にも取り組み、本展では新作演劇『日輪の翼』(原作: 中上健次)のための移動舞台車を発表。



演劇公演「日輪の翼」のための移動舞台車
2014
Photo: TANAKA Yuichiro

新港ピアのカフェで「オリジナルカクテル」新発売!

本展期間中限定で、新港ピアにオープンしている日埜直彦設計の特別なカフェ「Cafe Oblivion」。ひとつの物語として構成された本展の最後に登場し、横浜港を間近に臨むカフェでは、オリジナルパッケージの焼き菓子セット「菓子451」(税込1,250円)を販売するほか、8月下旬より新メニュー「オリジナルカクテル」が新登場します。

横浜美術館会場**トヨダヒトシ「映像日記/スライドショー」**

その場限りの作品との出会いとなる写真家トヨダヒトシのスライドショー第3弾。旅をやめ、日記を付けるように写真を撮り始めた頃からの5年の月日を三部構成で綴った映像日記より第一作目の作品を、横浜美術館にて野外上映します。

《An Elephant's Tail—ゾウノシッポ》

[1999-2014/35分/35mmスライド・フィルム、サイレント]

日時: 9月13日(土) 19:00-20:00(開場 18:30)

※ライブ上映のため、終了時刻は変更になる場合があります。

会場: 横浜美術館 * 野外上映

(雨天の場合: 横浜美術館レクチャーホール)

定員: 60名(参加費無料)

※トヨダヒトシによるポストトークがあります。

トヨダヒトシ(1963年/アメリカ生まれ)

1990年渡米。1991年、ニューヨークの国際写真センター(I.C.P.)が主催する社会人向け写真講座でナン・ゴールデンの指導を得る。1993年よりニューヨークを拠点に活動を開始。以降、写真を一切プリントせず、アナログの映写機を自ら操作し、モノとしての痕跡を残さないスライドショーによる映像日記作品を発表しつづけている。2012年より拠点を日本に移す。



An Elephant's Tail—ゾウノシッポ
[1999-2014/35分/35mmスライド・フィルム、サイレント]



◆映像プログラムオープニング上映:

フランソワ・トリュフォー《華氏 451》+大林宣彦氏講演会

本展に合わせて行われる特集上映会。横浜美術館所蔵フィルムや本展展示作家の映像作品を中心に、本展のテーマに関連する作品など計約 30 タイトルを 8 日間・10 プログラムで上映します。オープニング上映ではフランソワ・トリュフォー監督の《華氏 451》(1966 年/112 分)を特別上映。上映後、映画作家・大林宣彦氏による講演会を開催します。

日時:9 月 6 日(土) 13:30(開場 13:10)~

会場:横浜美術館レクチャーホール 定員:200 名(参加費無料) * 事前申込制

講演会「かのトリュフォーの、まことに痛ましき映画監督ゴッホ。—《華氏 451》を巡って。」

講師:大林宣彦(映画作家)

詳細情報、事前お申し込みは公式サイトをご覧ください

URL:<http://www.yokohamatriennale.jp/>

ヨコハマトリエンナーレ 2014 開催概要

正 式 名 称	ヨコハマトリエンナーレ 2014 「華氏 451 の芸術:世界の中心には忘却の海がある」 Yokohama Triennale 2014 “ART Fahrenheit 451: Sailing into the sea of oblivion”
会 期	2014 年 8 月 1 日(金)~11 月 3 日(月・祝) 開場日数:89 日間 休場日:第 1・3 木曜日(8/21、9/4、9/18、10/2、10/16)
主 会 場	横浜美術館 横浜市西区みなとみらい 3-4-1 新港ピア(新港ふ頭展示施設) 横浜市中区新港 2-5
開 場 時 間	10:00 ~ 18:00[月 1 回土曜日(9/13、10/11、11/1)は 20:00 まで開場] ※入場は閉場の 30 分前まで
主 催	横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、 横浜トリエンナーレ組織委員会
お 問 い 合 せ 先	横浜トリエンナーレ組織委員会 TEL 045-663-7232

※事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜=漢字表記)、第 5 回展の事業名は「ヨコハマトリエンナーレ 2014」(ヨコハマ=カタカナ表記)となります。

本リリースおよびご掲載に関するお問合せ

ヨコハマトリエンナーレ 2014 広報事務局(株式会社ユース・プランニング センター) 担当:浅野・池袋・岩川・鈴木
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 東海堂渋谷ビル 3F
TEL:03-3486-0575 FAX:03-3499-0958 E-mail:yt2014@yppcpr.com